



東地中海地域ニュース

イラン：第10期大統領選挙(1) (6月14、15日付現地、欧米、日本各紙参照)

対欧米強硬路線の保守派アフマディーネジャード大統領登場(2005年)後のイランでは、国際社会との関係は悪化し、インフレ率や失業率の高さが示すように国内の経済状態が悪化している。こうした状況の中で、オバマ米大統領がイランとの対話を進めると表明し、改革派のムーサヴィー候補の猛追が数々のメディアでしきりに報道されるなど、今回の第10期イラン大統領選(12日投票)は世界的にも注目を集めた。事実上アフマディーネジャードとムーサヴィーの一騎打ちとなった大統領選は混戦が予想され、その結果の確定は19日の決選投票に持ち越されるだろう、と見られていた。だが大方の予想を裏切り、アフマディーネジャード大統領が圧倒的な大差をつけて再選した。テヘラン市内では、落選したムーサヴィー元首相支持派による抗議行動が続いた。エンゲラフ(革命)大通り沿いにあるテヘラン大学の周辺では、若者がゴミや古タイヤに火をつけて警官隊に投石し、大統領支持者とも衝突した。バイクに乗った治安当局者が警棒でデモ隊を威嚇するなど鎮圧に乗り出している様子が、6月15日現在、日本でも映像でしきりに伝えられている。

選挙管理委員会によれば、男性433人、女性42人の計475人が立候補の届け出をした。その後、最高指導者が任命する聖職者6人と、法学者6人の計12人で構成される護憲評議会が審査を行い、保守強硬派のアフマディーネジャード大統領(52)の他、改革派のミールホセイン・ムーサヴィー元首相(67)、改革派のメフディー・キャッルービー元国会議長(71)、保守派のモフセン・レザーイー元革命防衛隊司令官(54)の4人の立候補を承認した。

13日のイラン内務省の発表によると、最終的な得票率は、アフマディーネジャード氏が62.63%、ムーサヴィー氏が33.75%(開票率80%の時点でレザーイー氏約2%、キャッルービー氏約0.9%)であった。マハスーリー内相は、投票率が85%だったと語った。これは、イラン大統領選挙史上、最高の数字である。また、イランのメディアがモッタキー外相の発言として伝えた所によると、在外投票の投票率は300%増加した。このように、猛烈な熱狂ぶりを見せた今回の大統領選では、投票に訪れる有権者数があまりにも多かったため、夜6時に締め切られる予定であった投票時間が4時間も延長された、という。

アフマディーネジャード大統領は13日夜、国民に向けたテレビ演説で、「偉大なる神

判」であり「未来への道」を示すものだとして「偉大な勝利」を宣言し、大統領選は「完全な自由選挙」であったと強調し、選挙結果を「国民の大多数が求めたことは明らか」と主張している。

一方、ムーサヴィー元首相を支持する改革派は、不正行為があったとして選挙結果に反発している。ムーサヴィー氏は開票終了前に発表した国民向けの書簡で、今回の選挙に不正行為があったと述べ、開票作業の全面的なやり直しを要求した。

元首相の支持者数千人は抗議活動を展開した。冒頭で述べたように、その一部は暴徒化し、警官隊と衝突した。ムーサヴィー氏は声明で「選挙違反は極めて深刻」と指摘したが、支持者らに対しては暴力行為を自制するよう訴えた。また、ムーサヴィー氏を支持したハータミー前大統領の政治組織「闘う聖職者たち」は声明で、選挙に「大規模な投票操作があった」と主張し、選挙結果を無効とし、投票をやり直すよう求めた。大統領選に出馬したキャッルビー元国会議長ら他の2候補も、不正があったとして再選挙を要求した。

それに対して最高指導者ハーメネイー師は、イランの選挙史上に新たな進歩を生んだとして、今回の選挙を称賛した。さらに、アフマディーネジャード氏とムーサヴィー氏の双方の支持者に対し、挑発的で疑いを招くような行動を控え、選挙結果を受け入れるよう促した。

イラン大統領選で強硬派のアフマディーネジャード大統領が再選されたことについて、米政権は中立姿勢を保ち、イラン国民の間で活発な議論が行われたことを称賛した。クリントン米国務長官は、イラン国民の決断を注視するとの意向を表明し、「米国はイランの選挙についてコメントを控える。我々は選挙結果が、純粹にイラン国民の意思や要望を反映していることを希望する」と述べた。ギブズ米大統領報道官は声明で、「この選挙で生まれた若いイラン国民を中心とする活発な議論や熱意に感動した」と述べ、米国は引き続き現地情勢を注意深く見守り、不正行為の報告に留意していくとの方針を明らかにした。

本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799